



もくじ

福島の子どもたちに甲状腺がんが過剰発生 直ちに検診地域の拡大と受診率の向上を.....	1
FFTV 紹介.....	3
「復興」名目の官民挙げての被ばく推進に抗議する-汚染の実態調査から.....	4
パンフレット紹介.....	5
ちくりん舎の新たな展開 ゲルマニウム半導体測定器 2 台化と測定料金値下げ.....	6
活動日誌 (6月11日~10月16日)	8
フクロウ&ちくりん舎 カフェ のお知らせ.....	8
会員・サポーター募集.....	8

フクロウの会

(福島老朽原発を考える会)

●フクロウの会は放射能汚染や事故の心配がなく、放射性廃棄物を生み出さない社会、すなわち原発のない社会をめざして首都圏で活動してきた団体です。

●今回残念ながら福島で重大な事故が起きてしまいましたが、事故による人々の被ばくが少しでも少なく抑えられるよう事故直後から情報提供、放射能測定プロジェクト、国や自治体への働きかけなどの活動を行ってきました。

●そんなフクロウの会の様々な活動を支えるための会員・サポーター・資金カンパ募集中です。ご協力いただけますと幸いです。

【カンパ送り先】

●ゆうちょ銀行からの振替

・口座記号番号
00130-9-655439

・口座名称(漢字)
福島老朽原発を考える会

・口座名称(カナ)
フクシマロウキウケンパツヲ
カンガエルカイ

●他の金融機関からの振込

・銀行名= ゆうちょ銀行
・金融機関コード 9900

・店番 019

・預金種目 当座

・店名 〇一九店(ゼロイチキユウ店)

・口座番号 0655439

フクロウの会(福島老朽原発を考える会)のブログ...<http://fukurou.txt-nifty.com/fukurou/>

福島の子どもたちに甲状腺がんが過剰発生 直ちに検診地域の拡大と受診率の向上を

福島の子どもたちに甲状腺がんが多発しており、公的にも認めざるを得なくなっています。疫学の専門家は、過剰発生について論文を発表し、チェルノブイリの状況に照らし、本格的な多発がこれから生じる可能性があるという警告を発しています。さらに、今回の過剰発生は、「スクリーニング効果説」や「過剰診断論」では説明できず、地区ごとに見ると、放射性ヨウ素を含むブルームが通過した地区でより顕著な過剰がみられると指摘しています。被ばくとの因果関係は明白です。福島県立医大による「手術症例」では、リンパ節転移や肺転移など、深刻な事例が多く、チェルノブイリの子どもたちと同じ傾向を示しています。

国は検診の実施そのものを否定する乱暴な「過剰診断論」により、放射能の影響を躍起になって否定しています。手術にあたった医師らは、過剰診断を明確に否定しています。

検診と治療の体制を早急につくらなければなりません。福島近接県やホットスポット地域でも検診が必要です。福島県の県民健康調査についても、受診率の向上が急がれます。その他のがんや慢性疾患についても検診と治療の体制を早急にとる必要があります。

■甲状腺がんが二巡目の検査でも多発

今年8月31日に行われた福島県「県民健康調査」検討会において、子どもたちの甲状腺検査の最新状況が明らかになりました。甲状腺がん又はがん疑いと診断された子どもたち138人のうち、99人の症状が深刻だとして摘出手術が実施されました。手術後、良性と判断されたのはわずか1人でした。

この中には二巡目の検査結果が含まれています。二巡目は二次検査が途中ですが、受診者約17万人のうち甲状腺がん又はがん疑いが25人、これまでに6名が手術を受け、いずれも悪性でした。25人のうち、一巡目の検査で問題なし(A判定)とされた子どもたちは23人でした。一巡目の検査は、対象者約36.8万人のうち、約30万人が受診し、受診率は8割を超えましたが、二巡目の受診率は44.7%に低下しています。

■疫学の専門家が本格的な多発はこれからだと警告

岡山大学教授で疫学の専門家である津田敏秀氏は、今年10月6日に公表された論文で、福島での小児甲状腺がんの発生率について地区ごとの分析を行った結果、全国の小児甲状腺がんの罹患率と比べ、20~50倍の多発であると指摘しています。「スクリーニング効果説」や「過剰診断論」に対しては、論文に基づく定量的な評価をすべき、通常のスクリーニング効果は多くても5~8倍程度で今回はそれよりも一桁多い、チェルノブイリ事故後に生まれた子ども約4万人に対する大規模な検診では1例も見つからなかった、と指摘し明確に否定しています。



また、南東地区の比較対象地域に比べて、放射性ヨウ素を含むプルームが流れた浜通りのいわき市（1.9倍）、中通りの二本松市を含む地区（2.6倍）から南方向の郡山市（2.0倍）、白河市を含む地区（2.1倍）の発生率が高くなっていると指摘しています。被ばくとの関係は明白です。

チェルノブイリ周辺では、事故後4年後から小児甲状腺がんが急増します。しかし、事故後1年後～3年後についても、統計的に優位に過剰な状況でした。津田氏は、小児の甲状腺がんの潜伏期間は最短で1年とされていること、平均潜伏期間はそれよりも長く、チェルノブイリでは4年後から急増したこと、福島の実状は、事故後1～3年後のチェルノブイリよりもさらに多発であることから、福島でも今後さらに急増する可能性があるという警告を発し、今から準備をするよう訴えています。

津田氏は、二巡目で新たな甲状腺がんが生じていることも問題視しています。二巡目についても、統計的に有意に多発であると分析しています。スクリーニング効果であれば、二巡目はほとんど出ないはずですが。また、小児甲状腺がんの潜伏期間が短いことも実証しています。（津田氏の論文については Our Planet TV のサイト参照）

■リンパ節転移や肺転移など深刻な症例が多い

8月31日の検討会では、福島県立医大の鈴木眞一氏の名前で手術症例について一枚の資料が提出されました。鈴木氏は甲状腺検査と手術の責任者でした。

手術症例の公表は、過剰診断論への反論の意図があったと思われますが、メディアや福島県内外の被災者が県に対して強く要求していた事項でもありました。資料によると、今年3月31日までに福島県立医大で手術が実施され、がんと確定診断された96例のうち、甲状腺のすべてを摘出する全摘が6例、片葉切除90例でした。病後病理診断で甲状腺外浸潤のあったのは38例、リンパ節転移は72例。肺への遠隔転移は3例でした。肺転移の深刻な事例については、明石昇二郎氏によるルボガ写真週刊誌に掲載されています。

チェルノブイリで見つかっている甲状腺がんは、通常の甲状腺がんとは異なり、潜伏期間が短く、子どもに多い、リンパ節や肺に転移する率が高いといった特徴があります。

原発事故直後に福島に入り、「100ミリシーベルト浴びても健康に影響はない」などと言いつけた山下俊一氏も、事故の2年前には、チェルノブイリでの検診の経験から「大人と異なり、小児甲状腺がんの約4割は、この小さい段階（1センチ以下、数ミリの結節）

で見つけてもすでに局所のリンパ節に転移があります。」（日本臨床内科医会誌第23巻第5号2009年3月）と書いています。今回明らかになった手術例は、チェルノブイリ型の甲状腺がんと同じ傾向を示しています。

■通常の甲状腺がんの「スクリーニング効果」説

通常の甲状腺がんは、進行が遅く、生命への影響も小さいとされます。ほとんどが大人に発症するもので、子どもの罹患率は極めて小さい特徴があります。

2013年に、県民健康調査の一巡目で甲状腺がんの多発ははじめて明らかになったとき、山下俊一氏や鈴木眞一氏は、多発の原因は、通常の甲状腺がんのスクリーニング効果によるものだと主張しました。スクリーニング効果とは、発症して明らかになる罹患率に比べて、積極的に検査することによって明らかになる発生率の方が高くなる効果です。大人になって発症するがんを先に見つけたというのです。鈴木眞一氏は、県民健康調査検討会で、「チェルノブイリでは甲状腺がんの多発は事故後4年目以降」（一巡目の検査は）「もともとの状態を見ている状況。放射線の影響とは考えられない」と述べていました。

「スクリーニング効果」は、チェルノブイリ原発事故でも、事故の影響を否定するために使われていました。チェルノブイリ周辺では、検査体制は全く不十分な状況にありましたが、事故1年後くらいから子どもの甲状腺がんの増加が確認されていました。4年後から飛躍的に増えますが、IAEAなどは、これはスクリーニング効果によるもの、被ばくによる影響ならば8年目以降に出るはずだとし、事故による影響を否定していました。彼らが事故の影響を認めたのは、事故後十年以上経ってからでした。

■県民健康調査検討会も多発と認めざるをえなくなった

多発の実態がさらに明らかになり、二巡目でも新たな症例が出る中で、県民健康調査検討会も、多発の事実を認めざるをえなくなりました。昨年11月に、検討会委員で疫学が専門の津金昌一郎氏（国立がんセンター）が約61倍の多発であるとの推計を出しました。今年5月の検討会甲状腺検査評価部会の中とりまとめには以下の一文があります。「こうした検査結果に関しては、わが国の地域がん登録で把握されている甲状腺がんの罹患統計などから推定される発生率に比べて数十倍のオーダーで多い」

問題はその解釈です。この一文に続くのが以下です。「この解釈については、被ばくによる過剰発生か過剰診断（生命予後を脅かしたり症状をもたらしたりし





「復興」名目の官民挙げての被ばく推進に 抗議するー汚染の実態調査から

全く報道されない健康被害と放射能汚染実態

福島県の子どもたちに甲状腺がん多発している。先日は岡山大学の津田敏秀教授が外国人特派員協会で記者会見し、国際環境疫学学会誌に投稿した自身の論文を紹介して、甲状腺がんの多発は「放射線被ばく以外の原因で説明するのは不可能」との見解を発表したが、大手新聞やテレビなどは一切これを無視した。最近開催された日本白内障学会で発表された福島原発事故緊急作業従事者の白内障初期病変の増加という気になるニュースも全く報道されていない。

食品や土壌など生活環境の放射能汚染実態についても一部の週刊誌やインターネットメディアで報道される程度で新聞やテレビは全く報道されなくなつたと言っていいたいだろう。

広範に広がる放射能汚染

一米にも、空気中にも、雨水にも、髪の毛にもフクロウの会/放射能測定プロジェクトはちくりん舎やいくつかの団体、個人と協同で生活環境の放射能汚染調査を継続している。地道な汚染調査の継続で、最近分かって来たことは、福島を中心として広い範囲で汚染が継続しているということである。原発事故直後の突出した汚染とは異なり、広く薄く長く放射能汚染が継続しているということである。いくぶん大げさに言えば「放射能まみれの生活」と言っても良いくらいのものである。社会や人々の関心が薄れる一方で、広く薄く「放射能まみれ」の生活が長く続くことは、我々や子ども、孫たちの世代への健康影響が危惧される。

ちくりん舎では岩手、栃木、山形、群馬、長野、秋田などの米を精度良く測っている。セシウム134,137それぞれ検出限界0.5ベクレル/Kgである。このレベルで測ると岩手、栃木等を中心に玄米、もち米、精米、無洗米などで0.5~8.0ベクレル/Kg(セシウム合計)程度のもものがしばしば発見される。福島県の米は測れていないのだがおそらくこれ以上のものがかかり出さるだろう。

リネン吸着法プロジェクトで大気中粉塵の放射能を測定している。その調査箇所は既に60カ所を超えている。この結果では、南相馬市、田村市などで大変高い値が検出されるのである。詳細はちくりん舎のウェブサイト<http://qq3q.biz/oDUZ> で随

雨水中のセシウム調査

測定はちくりん舎

検体種類	説明	測定結果 (単位 Bq/Kg)
雨水	福島県福島市御山 2015年7月23日 10:00a.m 採取	CS-134:0.046±0.019 CS-137:0.18±0.049
雨水	山形県山形市 2015年7月23日 18:53 採取 (降雨1回目)	CS-134:ND(0.032) Cs-137:ND(0.034)
雨水	山形県山形市 2015年7月23日 18:57 採取 (降雨2回目)	CS-134:ND(0.038) Cs-137:ND(0.046)
雨水	福島県福島市御山 2015年8月9日 18:30 採取	CS-134:0.043±0.020 Cs-137:0.18±0.050
雨水	福島県福島市佐倉 2015/8/10 15:00 採取	CS-134:ND(0.046) Cs-137:ND(0.051)
雨水	福島県田村市都路町岩井沢 2015/8/11 夜採取	CS-134:ND(0.041) Cs-137:ND(0.046)
雨水	福島県田村市船引町今泉 2015/8/13 朝採取	CS-134:ND(0.043) Cs-137:0.10±0.036
雨水	福島県郡山市堤下町 2015年9月7日 13:00 採取	CS-134:ND(0.041) Cs-137:ND(0.045)

晴天の続いた後の降り始めの雨水をきれいなタライに2L収集して測定

頭髮の汚染

測定はちくりん舎

測定対象者	測定結果 (Bq/Kg)		
	Cs-134	Cs-137	Cs 合計
南相馬市在住 20代女性	ND(4.4)	6.5	8.1(推定)
南相馬市在住 20代女性	ND(4.1)	7.0	8.8(推定)
南相馬市在住 50代女性	ND(5.5)	6.0	7.5(推定)
南相馬市在住 60代女性	ND(5.1)	9.6	12(推定)
南相馬市在住 50代女性	ND(7.1)	ND(7.0)	ND(10)
南相馬市在住 50代男性	ND(4.4)	14	18

前日または当日にシャンプー

時発表されているので是非参照して欲しい。

大気中粉塵との関係で、福島市内、田村市などの雨水からも0.1~0.2ベクレル/L程度のセシウム(134,137合計)が検出されている。雨水調査の結果の一部を表に示す。

これらのデータからは、一端土壌に沈着したセシウムが風で巻き上げられて空気中にホコリとして漂っていることを示している。細かいホコリは肺の奥まで到達して排出されにくいということが明らかにされている。大気中のホコリの放射能も気になると



ころである。

ほこりとの関係で気になるのが衣類や髪である。南相馬市在住の方にご協力をいただいて、髪放射能測定を行った。前日にシャンプーをし、美容院や理髪店でカットした髪である。これらからは5~14ベクレル/Kgのセシウムが検出された。いずれも前日にシャンプーをしたものであり、洗っても落ち切らずに髪にセシウムがこびりつき、これからも常時被ばくすることになる点が気になる。

「復興」名目に中高生を動員して国道6号線
清掃ボランティア活動

このような状況の中で、福島県では「復興」名目に子ども達をあえて放射線被ばくの状況にさらす、とんでもないプロジェクトが10月10日に行われた。フクイチ脇を通り福島県浜通りを南北に縦貫する国道6号線の清掃を中高生など子どもたちを動員して行ったのである。

国道6号線は2014年2月に開通したが、帰還困難区域を通過する際は、徒歩、バイク、自転車は通行禁止、車も一時停止や下車は禁止されている。帰還困難区域レベルと同等とは言えないまでもその前後、周辺が高い放射能汚染地帯であることには変わりはない。こんなところに子どもたちを「清掃ボランティア」と称して動員することは犯罪的なことである。

主催者は「みんなでやっぺ!! きれいな6国」実行委員会となっているが、日本会議と近いNPO法人ハッピーロードネットや相馬、原町、浪江青年会議所などが共催に名をつらねている。後援には国土交通省、環境省、復興庁、福島県、各自治体、警察が名を連ね、協賛には電力会社や福島民報など地元紙も上がっている。まさに官民を挙げて子どもたちをダシに使っての「復興」演出をしたのだ。被ばくの危険性を訴える市民団体70団体の賛同を得た中止の要請も行われたが、主催者は強行した。住民ら1400人、中高生200人が参加したと報道されている。

放射能測定プロジェクトとちくりん舎は、急ぎよ南相馬、福島の有志と連携して、清掃ボランティアが扱うゴミがどの程度の汚染実態なのかを調査した。

以下がその測定結果の一部である。

路上に落ちている「吸い殻」はセシウム合計で600Bq/Kg、紙くずやチリなどが混じった「その他のゴミ」では890Bq/Kgである。ボランティアに参加した中高生はマスクはおろか手袋さえしていない子どももいた。きちんとした教育をせずこうしたゴミをマスクなし、素手で取り扱えば吸込みや経口摂取の可能性は十分考えられる。

今回の測定で驚いたのはN95マスクからも検出されたことである。N95マスクとは一般のガーゼマスクとは異なり0.1~0.3μmの微粒子を95%捕捉できる特殊マスクである。テストのためにこれを約5時間装着して調査活動を行ったものである。このマスクから約20Bq/Kgが検出されたのである。ちなみにマスクの重量は8.6gであるので1枚のマスクのセシウム量としては0.17Bqとなる。マスクをしていなければこの分のセシウムが肺に入り込んだと考えられる。1μ以下の微粒子は肺の奥(肺胞)まで入り込み排泄されにくいことが分かっている。微量であっても極めて危険である。

今回行われた清掃ボランティア活動は、原発事故で中止されていた例年の行事を復活させたものである。来年も同様に行われることが考えられる。今回の測定データを元に危険性を訴えてこうした活動が行われないよう取り組む必要がある。

国道6号線付近のゴミと作業員の汚染
測定はちくりん舎

測定項目	測定結果 (Bq/Kg)		
	Cs-134	Cs-137	Cs 合計
プラ容器	ND(34)	ND(32)	ND(47)
たばこ箱	ND(31)	87	109 (推定)
ワンカップ瓶	ND(3.1)	ND(3.1)	ND(4.3)
吸い殻	130	470	600
その他ゴミ	170	720	890
軍手	82	339	421
靴カバー	90	360	450
N95 マスク	ND(7.6)	16	20 (推定)

10月9,10日「道の駅」相馬で採取。
軍手、靴カバー、マスクは採取者使用。
10月9-10日で約5時間使用



パンフレット紹介

Vol. 5 を 2015 年 3 月 1 日に発行しました

「福島の子どもたちの尿検査から見えてきたもの」 Vol.1~Vol.5 (カンパ1冊:500円)

☆入手ご希望の方は件名をパンフレット希望としていただいて、ご希望のパンフレット名、冊数、
送付先(郵便番号、住所)、氏名をご連絡ください。申込 メール kaoki18014@gmail.com FAX 03-5225-7214
☆カンパ+送料は振り込み用紙を同封しますので受け取り後振り込んで下さい。



ちくりん舎の新たな展開 ゲルマニウム半導体測定器2台化と測定料金値下げ

長引く放射能汚染の拡大

福島原発事故による放射能汚染は拡大し続けています。事故後既に4年半も経過するにもかかわらず、放射能を高濃度に含む汚染地下水は相変わらず海水中に漏れ続けています。メルトダウンした核燃料は大部分が原子炉から溶け落ち格納容器の底をも突きぬけていると考えられています。最近では福島第1原発周辺がしばしば濃い霧で覆われることがあります。地下水がメルトダウンした核燃料により熱せられ放射能を含む水蒸気が立ち上って拡散していることが危惧されます。9月の台風と大雨により日光市や飯館村では除染土を詰めたフレコンバッグが合計750個近く流出し、環境中に再び放射能が拡散してしまいました。

このような状況の中で、ちくりん舎のゲルマニウム半導体測定器による高精度測定に対するニーズは依然として高いものがあります。

ゲルマ2台体制の運用開始

2013年6月に測定をスタートした市民放射能監視センター（ちくりん舎）はフクロウの会をはじめ、多くの市民団体や個人からの支援により順調にその活動を進めています。スタートからちょうど2年目の今年6月には、高精度分析ができるゲルマニウム測定器を新たに1台立上げ、これまでのゲルマと合わせて2台の運用がスタートしました。

ゲルマニウム測定器を2台設置して運用することは、単に処理能力が2倍になるだけではありません。2台になることで、実際には2倍以上のメリットが出てきます。それは以下のようなものです。

(1) 測定作業の効率化：測定には時間がかかりま

す。求められる測定精度や検体の状況により測定時間は30分から長いものでは48時間などとさまざまです。1台ですと長時間測定の間、作業の待ち時間が生じますが、2台で運用することで待ち時間がぐっと減り、作業が効率的にできるようになります。

(2) 測定精度の維持と向上：2台あることで、測定結果がおかしい時に別の測定器でチェックしてみたり、それぞれの測定器の状態を比較することで問題点の改善、精度の向上などにつながります。

(3) トラブル対応力の向上：2台あれば、測定器のトラブル等の場合でも、測定作業を中断することはなくなります。正常な測定器で測定作業を継続しながら、トラブル対応を確実に行うことができます。

寄付金も目標達成-ちくりん舎に対する 大きな期待を実感

ゲルマニウム半導体測定器はセットで購入すれば1式2千万円近くもする高価な測定器です。市民団体が簡単に新たなものをご購入する訳にはいきません。ちくりん舎では、これまでの2年間の活動で、さまざまな工夫やボランティア作業などで経費を抑えてきました。そのような中で故障時に備えて中古のゲルマニウム半導体検出部やアナライザー、ソフトライセンスなどの部品を少しずつ買いそろえてきました。こうした予備部品をうまく活用して、高精度測定をより安くできるようにしようということで、ゲルマ2台化計画が持ち上がりました。

もちろん、予備品だけでは不足です。建屋の増設や鉛遮蔽体の新規購入などが必要なため、新たに寄付を募りました。実質2カ月間程度の募集期間でしたが、おかげさまで多くの皆さまの支援により、目標額を超える108万円の寄付が集まりました。ちくりん舎に対する皆さまの大きな期待をあらためて実感した次第です。

もちろん2台化にあたっては、測定室の増設工事、鉛遮蔽体の設計と製作、新ゲルマの立上げ調整、校正作業などはちくりん舎スタッフや会員で技術を持っている人達が知識や技術を提供して、メーカーに一括発注することと比べたら信じられないほど低価格に抑えたことは言うまでもありません。それでも寄付金額では不足で、90万円ほど借入金も発生してしまいましたが、今後の測定料収入で分割返済してゆく予定です。

尿検査もより安くできるように - 新料金体系

ちくりん舎内部での検討を経て、10月度受付分からは新料金体制での運用を開始しました。新料金体制の狙いは、「高精度な測定をより低料金にする」ということです。合わせて内部被ばくを低減するために有



手前側が新設したゲルマ測定器

効な「尿検査をより安くする」ということにも配慮しました。高精度な測定をより安くすることは実質的に長時間の測定料金を安くすることになります。

短時間測定を安くできないのは、検体の準備や後始末、データの入力確認や事務作業など固定的な費用が発生してしまうためです。

新料金体系は以下のようなものです。フクロウの会の皆さまもちくりん舎の新たな料金体系や尿検査の一括申し込み割引制度などを周辺に広めていただきたいと思います。

自らの手で立ち上げることで技術レベルアップ

ちくりん舎のゲルマ測定器はメーカーによる1式セットでのシステムではありません。検出部とアナライザー、ソフトなどそれぞれ別メーカーの部品を組み合わせたものです。(若い人にはあまりなじみがないかもしれませんが)ステレオで言えばコンポーネントシステムのようなものです。

これらを自ら立上げ校正をすることで、それぞれのゲルマ測定器の特徴が見えてきました。私たち自身もあまりよく分かっていなかったことですが、同じゲルマ測定器でも現実にはいくつかのタイプがあり、特徴があります。

詳しい技術的な説明はここでは省きますが、今回立ち上げた中古のゲルマ検出部はセシウム134,137、ヨウ素131等の測定が得意で比較的短時間で高精度に測定できます。従来から使用しているゲルマ検出部は、もちろんセシウム、ヨウ素も測定もできますが、これから問題になるアメリカシウム241などセシウム以外の核種など、より低いエネルギーレベルの測定にも有効です。

今後、こうしたゲルマニウム半導体検出部の特性を活かした使い分け、環境中にばら撒かれた、セシウム、

ヨウ素以外の核種の分析の技術レベルを上げることがちくりん舎の課題となっています。

ちくりん舎を通じて新たな協力関係が

「反原発運動、環境保護運動などの団体や個人の協同のラボ(測定所)」というコンセプトでスタートしたちくりん舎は、今回のような測定能力のアップだけではなく、「協同のラボ」活動を通じて、新たな団体・個人間の協力と連携が広がり、それぞれの団体、個人の能力を相互に活かし合う関係が生まれ始めています。これについてもいくつか事例を紹介したいと思います。

(1) リネン吸着法による大気中粉塵の放射能調査

既にこの「フクロウ通信」25号でも紹介した「リネン吸着法」による大気中粉塵の放射能調査はちくりん舎の主要な構成団体である「たまあじさいの会」の会員の方のアイデアによるものです。「たまあじさいの会」が取り組んでいた、東京日の出町のエコセメント工場からの放射能拡散の証拠を何とか捕まえられるか、ということから生まれた画期的なアイデアでした。この方法をシステム化して福島や各地の大気中粉塵の放射能調査のプロジェクトの展開につながりました。

(2) 尿検査による内部被ばく調査

フクロウの会では福島原発事故後、いち早く、内部被ばく調査のために尿検査プロジェクトを開始しましたが、ちくりん舎の活動を通じて、福島の実情を訴えながら尿検査資金を集め尿検査を推進する都あきる野市の「チャイルドのネット」グループとの共同行動が始まりました。この動きは伊達市や白石市の保護者グループとの連携、協力関係にまで広がりを見せています。

(3) 南相馬20ミリシーベルト基準撤回訴訟の支援

リネン吸着法や土壌汚染調査を通じて、南相馬20ミリシーベルト基準撤回訴訟の原告の方々との協力関係が生まれました。この訴訟は、福島原発事故後、国が住民に押し付けている被ばく限度20ミリシーベルトの撤回を求める重要な裁判です。この裁判支援のために、南相馬市の汚染状況の分析などで「フクロウの会」や「たまあじさいの会」、「南相馬モニタリングプロジェクト」など、ちくりん舎を通じてできた連携を活かした支援が始まっています。

わずか2年半の活動ですが、ちくりん舎の活動を通じて、単に測定・分析をするだけでなく、それぞれの団体・個人の特徴を活かした連携が始まっています。引き続きちくりん舎の活動にご支援をよろしくお願い致します。

NPO法人市民放射能監視センター(ちくりん舎)
理事 青木一政

新料金表 (2015年10月1日より)								
NPO法人 ちくりん舎								
●一般の検体								
円/時間	0.5	1	2	4	8	18	24	48
会員	2,500	3,000	5,000	6,500 (8,500)	10,000 (12,000)	13,000 (16,500)	15,000 (18,000)	18,000
非会員	3,000	4,000	6,500	8,000 (11,000)	12,500 (15,500)	17,000 (21,500)	18,500 (23,000)	21,500
*括弧内は旧料金です。12時間の料金設定は無くなりました。								
*測定時間を長くすることで検出限界は下がります(精度があがる)。詳しくはお問い合わせください。								
●尿検査(18~24時間測定)検出限界0.1Bq/Kg程度								
1検体	10,000円/1検体							
3検体以上	9,000円/1検体							
5検体以上	8,000円/1検体							
*お申込みの際に検体数をお知らせください。								
●リネン吸着プロジェクト(18~24時間測定、リネン布代含む)								
12,000円/1検体								



活動日誌

(6月11日~10月16日)

- 6/19 フクロウ通信 25号
- 6/29 川内原発(火山監視/老朽化/防災)に関する政府交渉
- 7/7 川内原発の燃料装荷を認めるな! アピール行動
- 7/13 川内原発高経年化審査についてのアピール・要請行動
- 7/13 白石市尿検査結果説明会
- 7/13, 14 白石市内汚染状況調査
- 7/15 伊方原発3号機・設置変更許可に反対して抗議アピール
- 7/23 川内原発の火山監視について保安規定の異議申し立て
- 7/26 原子力防災を問う全国の集い in かごしま
- 7/28 ストップ汚染水国際署名提出・政府東電交渉
- 8/4 川内原発高経年化問題・緊急院内集会和政府交渉
- 8/5 川内原発高経年化のすさん審査・再稼働を許さない! アピール行動
- 8/5 ほかほかプロジェクト in 猪苗代にて健康管理問題についてミニセミナー
- 8/7 川内原発1号炉、高経年化で異議申し立て
- 8/11 許すな川内原発再稼働! 8・11アクション
- 8/11 川内原発再稼働に抗議する共同抗議声明
- 8/26 川内原発1号炉の停止を求める署名提出・政府交渉
- 9/9 川内原発1号機の即時停止を求める抗議アピール&署名提出行動
- 10/4 「さよなら原発にしたま」講演会にて「もう消えた?放射能」と題して講演
- 10/12 栃木県塩谷町にて講演と尿検査の説明
- 10/14・15 川内2号炉再稼働反対! 規制委前・官邸前アピール行動

「ほかほかプロジェクト」、
「原子力規制を監視する市民の会」、
「放射線被ばくと健康管理のあり方に関する市民・専門家委員会」、
「ちくりん舎」での活動を含みます。

その他 福島ほかほかプロジェクト、ちくりん舎、規制庁前行動、FFTV、など他団体と共同で活動中



フクロウ & ちくりん舎カフェ

11月15日(日)13:30~16:00頃(開場13:15)

@フクロウの会事務所

(飯田橋駅5分:311市民プラザ内)

新宿区下宮比町3-12明成ビル302号

参加費:300円(お茶・お菓子付き)

大好評のフクロウカフェ、今回はちくりん舎と共同開催です♪



どうぞお誘いあわせの上
お気軽にご参加下さい。



講師派遣します

講師依頼などもお気軽にご相談ください

フクロウ通信に載っていたあの話、もっと詳しく聞いてみたい!

そんな時、少人数の学習会から大規模な講演会まで、可能な限り

対応いたします♪

お気軽に♪

フクロウの会では、会員・サポーターを募集中です。

会員・サポーターには通信を郵送します。

【会費】・会員1000円/月 ・サポーター1000円以上/年

●集会でのスタッフやパンフ作成のご協力など一緒に活動していただける方を募集しています。

●皆さまの貴重なご意見もお待ちしております。

フクロウの会の趣旨にご賛同いただき、会員・サポーターになっていただける方は、フクロウカフェなどにお越しの際に申込書にご記入の上、会費を添えてフクロウの会事務局員にお渡しください。

【お問い合わせ・お申し込み先】

TEL: 03-5225-7213 FAX: 03-5225-7214 Email: fukurounokai@gmail.com
(通信郵送のお申し込みもこちらで受け付けています☆ご希望の方はお知らせください。)

